

STAGE+を楽しむ(89)(HP 収載)
—トリフォノフとネゼ＝ゼガン—

1. 始めに

前報(88)に引き続き、STAGE+のトリフォノフとネゼ＝ゼガンの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、トリフォノフとネゼ＝ゼガンの演奏を選びました。

ライブ配信 2023年11月5日 2:00

トリフォノフとネゼ＝ゼガンによる「パガニーニの主題による狂詩曲」

フィラデルフィア管弦楽団

再配信 2023年11月5日 10:00

再配信 2023年11月5日 20:00

いま世界で最も注目を集めるピアニストのひとりであるダニール＝トリフォノフが、メトロポリタン・オペラ、フィラデルフィア管弦楽団の音楽監督を務めるヤニック・ネゼ＝ゼガンとバーデン＝バーデンで共演する模様をお届けします。「パガニーニの主題による狂詩曲」は過去にも共演経験のある楽曲で、圧倒的な信頼感のもと、輝かしい音楽が展開します。若きラフマニノフの意欲作である交響曲第1番も、楽曲のドラマ性を見事に引き出した演奏となることでしょう。

ソリスト:

ダニール・トリフォノフ (ピアノ)

演奏:

フィラデルフィア管弦楽団

指揮:

ヤニック・ネゼ＝ゼガン

曲目:

セルゲイ・ラフマニノフ 《ヴォカリーズ》 op. 34-14 (オーケストラ版)

セルゲイ・ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲 op. 43

ダニール・トリフォノフ(ピアノ)

セルゲイ・ラフマニノフ 交響曲第1番ニ短調 op. 13



3. 試聴の経過

今回も LAN アクキュライザーをスイッチングハブから PC への LAN ケーブルに装着して聴いていきます。

2023 年 11 月 5 日 10:00 からの再配信を聴きましたが、受信は安定していました。バーデン=バーデン祝祭劇場でのオールラフマニノフプログラムの演奏の収録です。

《ヴォカリーズ》はお馴染みの曲のオーケストラ版への編曲です。

パガニーニの主題による狂詩曲は、ネゼ=セガンの切れ味の良い指揮の下、アメリカのオーケストラらしいフィラデルフィア管弦楽団の豪快な演奏をバックに、トリフォノフの狂気のようなダイナミックなピアノリズムが炸裂していました。

アンコール曲は、バッハの無伴奏パルティータのガボットとジャズのような曲で、ウイットに富んだ演奏で、ネゼ=セガンも聴き惚れていました。

交響曲第 1 番は、色彩感に富んだ曲ですが、切り裂くような金管や地響きのような低音などが表現され、終演後は盛んなスタンディングオベーションが続きました。音質的には鋭いピアノの打鍵、やわらかなハープの音色、切り裂くような金管、炸裂する打楽器、ホールに響き渡る低弦に唸りなど、LAN アクキュライザーの効果と思われれます。



4. まとめ

LAN アキュライザーが加わったことで、ライブ収録における豪快なオーケストラとトリフォノフのピアノを細部にいたるまで捉えられるようになっていました。

以上